

川内で防災訓練が実施

福島事故後初 OFC運営、ヨウ素剤配布他



政府主催の原子力総合防災訓練が十一、十二日、九州電力川内原子力発電所(写真)の大地震によるシミュレーションを想定して行われた。官邸とも連携し、鹿児島県、関係市町村、電力他、約百三十の参加機関、参加人数合計約三千四百人のもと、オフサイトセンター運営、避難・救護活動、報道対応など、全般的な訓練を行い、今後の、防災体制充実に向け、各種計画・マニュアル等の検証、必要な見直しを図っていく。原子力災害対策特別措置法に基づき実施されるもので、福島発電所事故以降で、規制委員会発足後、初の開催となる。

訓練は、2号機の定格熱出力一定運転中、薩摩川内市沖で震度六強の地震と津波が発生し、原子炉自動停止。その後、震度五強の余震発生で、高圧

送電線鉄塔の倒壊等により外部電源喪失となり、全面緊急事態となったという想定で行われた。規制庁長官から事故状況の報告、自治体への指示案などが官邸に提出された。一定の評価が上がったものの、テレビ会議による情報共有、避難先への移動に伴い発生しうる障害に関し検討すべき改善事項が、外部専門家や参加者から指摘されていることが規制庁より報告された。田中俊一委員長は、「主人公はあくまで住民」として、情報伝達が必ずしも十分ではなかったなどと所感を述べた。

原子力・廃炉分野に於けるフランスの企業・団体は、十五日に来日し、フランス大使館で行われたジャーナリストとの懇談会で日本への技術提供に意欲を示した(写真)。

廃炉技術協力で期待

仏企業団 日本ジャーナリストと懇談



来日したのは、仏原子力産業連盟G. I. I. N.、エルメス、サフィモ、ヌヴィア、アバウ、エクロム・ラボラトリーズ、イエスアイグループ、ブイドラム、オークリッジ、オレカグループ、デルタメタルの十一企業・団体。

今回のミッションは、日本政府が原子力発電所の廃炉対策で国際的な専門技術を受け入れる姿勢を示したことを受け、フランス企業振興機構・ユビランズ主催で日本の原子力業界関係者との交流を図るもの。

懇談会で、グゼリ駐日フランス大使館原子力参事官は、両国の原子力協力に長い歴史がある中

で、福島対応に限っては「状況は江戸時代の鎖国と同じ」と外国企業との提携が進んでいないことを指摘し、再処理施設などの解体経験が豊富なフランスのノウハウが活かされることを期待した。

核兵器の人道的影響で署名へ
岸田外相表明

岸田外務相は十一日、ニューヨークで開催中の国連総会第一委員会で開催される見込みの「核兵器の人道的影響に関する共同ステートメント」について、日本も署名することを発表した。

日本は核兵器の非人道性についての基本的な認識を共有してきたものの、安全保障環境を考慮した際に適切でない表現があるとして、これまで同ステートメントへの署名を見送ってきたが、このほど、適切な修正がなされ、支持できる内容との判断に至ったもの。

高レベルで映画とアップリンク
東京・渋谷のミニシアター「アップリンク」は二十三日夜、ドキュメンタリー映画上映とトークイベント「TIME to SOLVE 高レベル放射性廃棄物処分」日本におけるコンセンサスの過程」を開催する。九月に

も一度行われた。ゲスト登壇者は、朽山修氏(原子力安全研究協会)、伊藤正雄氏(経済産業省、鈴木達治郎氏(原子力委員長代理)他が予定されている。

限定三十名で、来場には事前予約と入場料千五百円が必要。内容詳細、予告編、予約等は、アップリンクのウェブサイトで(<http://www.uplink.co.jp>)を参照。

新潟、福島 平和のアピール
ふるdeアトム

原子力立地地域をランニングや自転車で行くというイベント「ふるdeアトム」が二十四、二十五日にスタートを切り、阿賀の里、猪苗代湖などの観光スポット、郡山市、川内村を経由し、東京電力の福島復興本社(Jビルディング)にゴールする。

「巨大複合災害」を検証

学術会議 海外アカデミア交え議論



東日本大震災に伴う影響と対策を検証し、将来に向けた政策のあり方を議論する国際会議が九、十日、東京・港区の日本学術会議で行われた(写真)。

二日目のセッションでは、福島第一発電所の事故廃止措置の現状について、東京電力が説明し、原子力災害からの復興・復興プロセスにおける国際的協力、知見の共有を中心とした議論が展開された。東京電力で廃炉研究開発を担当する鈴木俊一氏は、中長期ロードマップに従って取り組む事故廃止措置

の現状について報告するとともに、八月に発足した国際廃炉研究開発機構を通じて、特に汚染水問題に鑑み、「予期せぬことが起こることも念頭に置く」としながら、世界の英知を結集し、技術開発を進めていく考えを強調した。

これに対し、フランスの材料工学に関する専門家からは、事故に伴う廃炉の特性として、構造物の変形局所化の可能性、放射能汚染を指摘し、ロボット技術の開発で困難を克服すべきことなどが述べられた。

さらに、二〇年頃に開始が見込まれる燃料デブリの取り出し後の対応に関する場内からの質問に対し、鈴木氏は、海外からも非常に関心が高いことをあげた上で、廃炉の

エンドステートメントを、今後三年くらいかけて検討していくなど述べた。

セッションでは結びに、将来のエネルギー政策について、各国からの参加者に尋ねたところ、英国からは、既存原子炉の老朽化に伴い、再生可能エネルギーやガスも拡大するが、原子力は引き続き重要な部分を占めることとして、新設もあろうことが述べられた。

一方、米国は、ガスの大量産出により、原子力は、コストの相対的な上昇で、新設されないムーブにあるものの、CO2排出削減の必要も含め合わせ、原子力の将来は見通せない状況にあることが述べられた。台湾も、老朽化した原子炉の地震影響の懸念とともに、住民の激しい反対運動で新

員会定例会議で、今回の訓練に関し、オフサイトセンター立ち上げ初期段階からの各班機能の集約、車両除染やスクリーニングの円滑な実施など、一定の評価が上がったものの、テレビ会議による情報共有、避難先への移動に伴い発生しうる障害に関し検討すべき改善事項が、外部専門家や参加者から指摘されていることが規制庁より報告された。田中俊一委員長は、「主人公はあくまで住民」として、情報伝達が必ずしも十分ではなかったなどと所感を述べた。

原子力・廃炉分野に於けるフランスの企業・団体は、十五日に来日し、フランス大使館で行われたジャーナリストとの懇談会

で、福島対応に限っては「状況は江戸時代の鎖国と同じ」と外国企業との提携が進んでいないことを指摘し、再処理施設などの解体経験が豊富なフランスのノウハウが活かされることを期待した。

核兵器の人道的影響で署名へ
岸田外相表明

岸田外務相は十一日、ニューヨークで開催中の国連総会第一委員会で開催される見込みの「核兵器の人道的影響に関する共同ステートメント」について、日本も署名することを発表した。

日本は核兵器の非人道性についての基本的な認識を共有してきたものの、安全保障環境を考慮した際に適切でない表現があるとして、これまで同ステートメントへの署名を見送ってきたが、このほど、適切な修正がなされ、支持できる内容との判断に至ったもの。

高レベルで映画とアップリンク
東京・渋谷のミニシアター「アップリンク」は二十三日夜、ドキュメンタリー映画上映とトークイベント「TIME to SOLVE 高レベル放射性廃棄物処分」日本におけるコンセンサスの過程」を開催する。九月に

も一度行われた。ゲスト登壇者は、朽山修氏(原子力安全研究協会)、伊藤正雄氏(経済産業省、鈴木達治郎氏(原子力委員長代理)他が予定されている。

限定三十名で、来場には事前予約と入場料千五百円が必要。内容詳細、予告編、予約等は、アップリンクのウェブサイトで(<http://www.uplink.co.jp>)を参照。

新潟、福島 平和のアピール
ふるdeアトム

原子力立地地域をランニングや自転車で行くというイベント「ふるdeアトム」が二十四、二十五日にスタートを切り、阿賀の里、猪苗代湖などの観光スポット、郡山市、川内村を経由し、東京電力の福島復興本社(Jビルディング)にゴールする。

十七日にかけて行われる。新潟県から福島県までを三日間で駆け抜き、原子力の平和利用を願うメッセージを発信する。NPO法人「持続的平和研究所」が主催する「ふるdeアトム」は、〇九年十一月に福島県で初開催され、以後、立地地域と消費地域が「新たな絆を育みつないでいく」場として、好評を博しており、今回で五回目の開催となる。行程は、二十四日に柏崎市内で前夜祭を行い、翌二十五日にスタートを切り、阿賀の里、猪苗代湖などの観光スポット、郡山市、川内村を経由し、東京電力の福島復興本社(Jビルディング)にゴールする。

原子力ワンポイント



放射線は産業のイノベーションを手助けしてきており、測定・検査、製品の耐熱性や耐久性の向上、また、発泡プラスチックの製造など、多方面で利用されています。

ゆりちゃん 本紙で以前、放射線を稲や梨などに照射して品種改良することを知りました(二〇一三年九月十九日)広く利用されている

放射線(16)参照。放射線は新しい材料の開発にも利用できるのですか？

タクさん はい、利用されています。今年八月初旬、葛飾区で開かれた「第六十回全国中学校理科研究会」で先生方に体験してもらいました。が、そこで用意したのはポリカプロラクトン(PCL)と呼ばれるプラスチック材料と、それに放射線を照射したものの

タクさん ちよっと専門的になりますが、高分子という非常に長い分子でできているプラスチックやゴムなどを放射線を照射すると、隣り合う高分子の一部がつながって、ちよっと、橋がかかったような

タクさん 橋かけ反応を起させ、強度を高めているのです。その他、家庭用の風呂や自動車の内装品あるいはサーフボードなどに使われている発泡プラスチックにも、橋かけ(架橋)反応が利用されており、軽くて丈夫な製品ができあがります。

ゆりちゃん すごくいいですね。放射線は他にも利用されているのですか？

タクさん 実は、工場で作られたいろいろな製品は、規定の厚さになつているかどうか厳重な検査を受け、これに合格したものが私たち

放射線による分子の橋かけの仕組み

放射線が当たると、分子の間に橋かけが形成され、強度が増します。

図の出典:原子力だよりみやぎ 平成20年10月号

タクさん 代表的なものに自動車の「ラジアルタイヤ」があります。タイヤはゴムでできていますが、天然の生ゴムは弱く、そのままでは使えません。そこで、生ゴムに放射線(電子線)を照射して、橋かけ反応を起させ、強度を高めているのです。そのほか、家庭用の風呂や自動車の内装品あるいはサーフボードなどに使われている発泡プラスチックにも、橋かけ(架橋)反応が利用されており、軽くて丈夫な製品ができあがります。

ゆりちゃん すごくいいですね。放射線は他にも利用されているのですか？

タクさん 実は、工場で作られたいろいろな製品は、規定の厚さになつているかどうか厳重な検査を受け、これに合格したものが私たち

も一度行われた。ゲスト登壇者は、朽山修氏(原子力安全研究協会)、伊藤正雄氏(経済産業省、鈴木達治郎氏(原子力委員長代理)他が予定されている。

限定三十名で、来場には事前予約と入場料千五百円が必要。内容詳細、予告編、予約等は、アップリンクのウェブサイトで(<http://www.uplink.co.jp>)を参照。

新潟、福島 平和のアピール
ふるdeアトム

原子力立地地域をランニングや自転車で行くというイベント「ふるdeアトム」が二十四、二十五日にスタートを切り、阿賀の里、猪苗代湖などの観光スポット、郡山市、川内村を経由し、東京電力の福島復興本社(Jビルディング)にゴールする。

放射線は産業のイノベーションを手助けしてきており、測定・検査、製品の耐熱性や耐久性の向上、また、発泡プラスチックの製造など、多方面で利用されています。

ゆりちゃん 本紙で以前、放射線を稲や梨などに照射して品種改良することを知りました(二〇一三年九月十九日)広く利用されている

放射線(16)参照。放射線は新しい材料の開発にも利用できるのですか？

タクさん はい、利用されています。今年八月初旬、葛飾区で開かれた「第六十回全国中学校理科研究会」で先生方に体験してもらいました。が、そこで用意したのはポリカプロラクトン(PCL)と呼ばれるプラスチック材料と、それに放射線を照射したものの

タクさん ちよっと専門的になりますが、高分子という非常に長い分子でできているプラスチックやゴムなどを放射線を照射すると、隣り合う高分子の一部がつながって、ちよっと、橋がかかったような

タクさん 橋かけ反応を起させ、強度を高めているのです。その他、家庭用の風呂や自動車の内装品あるいはサーフボードなどに使われている発泡プラスチックにも、橋かけ(架橋)反応が利用されており、軽くて丈夫な製品ができあがります。

ゆりちゃん すごくいいですね。放射線は他にも利用されているのですか？

タクさん 実は、工場で作られたいろいろな製品は、規定の厚さになつているかどうか厳重な検査を受け、これに合格したものが私たち

放射線による分子の橋かけの仕組み

放射線が当たると、分子の間に橋かけが形成され、強度が増します。

図の出典:原子力だよりみやぎ 平成20年10月号

タクさん 代表的なものに自動車の「ラジアルタイヤ」があります。タイヤはゴムでできていますが、天然の生ゴムは弱く、そのままでは使えません。そこで、生ゴムに放射線(電子線)を照射して、橋かけ反応を起させ、強度を高めているのです。そのほか、家庭用の風呂や自動車の内装品あるいはサーフボードなどに使われている発泡プラスチックにも、橋かけ(架橋)反応が利用されており、軽くて丈夫な製品ができあがります。

ゆりちゃん すごくいいですね。放射線は他にも利用されているのですか？

タクさん 実は、工場で作られたいろいろな製品は、規定の厚さになつているかどうか厳重な検査を受け、これに合格したものが私たち

も一度行われた。ゲスト登壇者は、朽山修氏(原子力安全研究協会)、伊藤正雄氏(経済産業省、鈴木達治郎氏(原子力委員長代理)他が予定されている。

限定三十名で、来場には事前予約と入場料千五百円が必要。内容詳細、予告編、予約等は、アップリンクのウェブサイトで(<http://www.uplink.co.jp>)を参照。

新潟、福島 平和のアピール
ふるdeアトム

原子力立地地域をランニングや自転車で行くというイベント「ふるdeアトム」が二十四、二十五日にスタートを切り、阿賀の里、猪苗代湖などの観光スポット、郡山市、川内村を経由し、東京電力の福島復興本社(Jビルディング)にゴールする。

十七日にかけて行われる。新潟県から福島県までを三日間で駆け抜き、原子力の平和利用を願うメッセージを発信する。NPO法人「持続的平和研究所」が主催する「ふるdeアトム」は、〇九年十一月に福島県で初開催され、以後、立地地域と消費地域が「新たな絆を育みつないでいく」場として、好評を博しており、今回で五回目の開催となる。行程は、二十四日に柏崎市内で前夜祭を行い、翌二十五日にスタートを切り、阿賀の里、猪苗代湖などの観光スポット、郡山市、川内村を経由し、東京電力の福島復興本社(Jビルディング)にゴールする。